

産学官金連携コンソーシアム「Team Sapporo-Hokkaido」主催  
学生向けシンポジウム  
「－学生の知るべき未来が、今ここに－ 北海道GXの可能性と金融・エネルギーの将来」  
パネルディスカッション「北海道GXの可能性と金融・エネルギーの将来」

# 脱炭素社会実現に向けた ほくてんグループのGXの取り組み

2023年10月30日

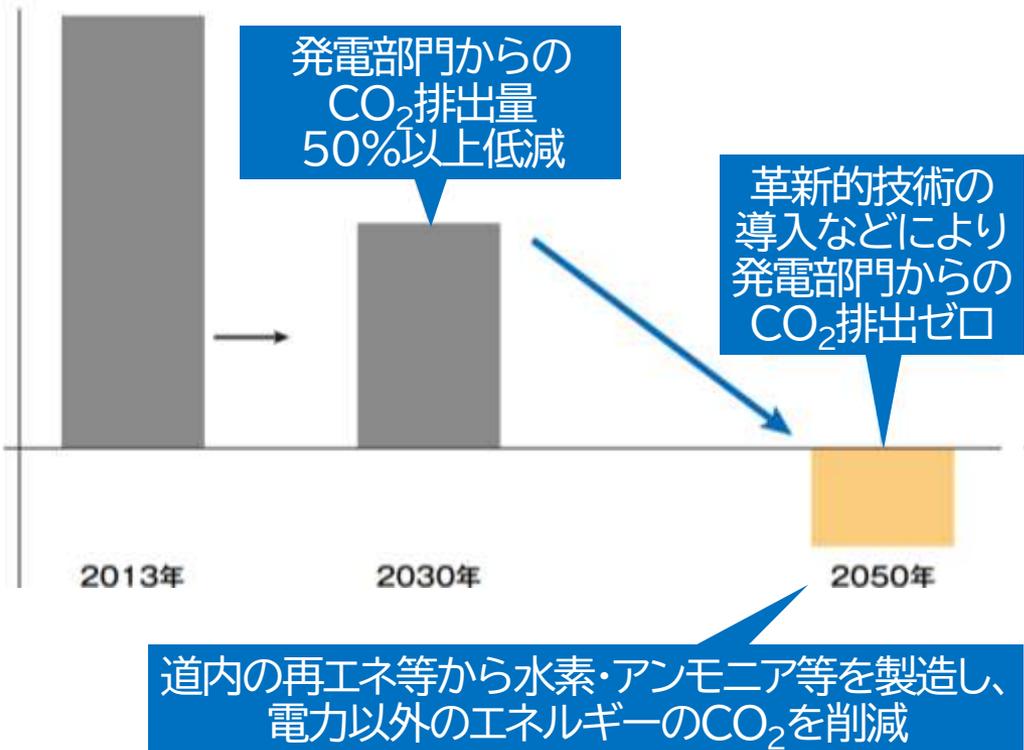
北海道電力株式会社

経営企画室 企画・政策グループ 今井 亮介

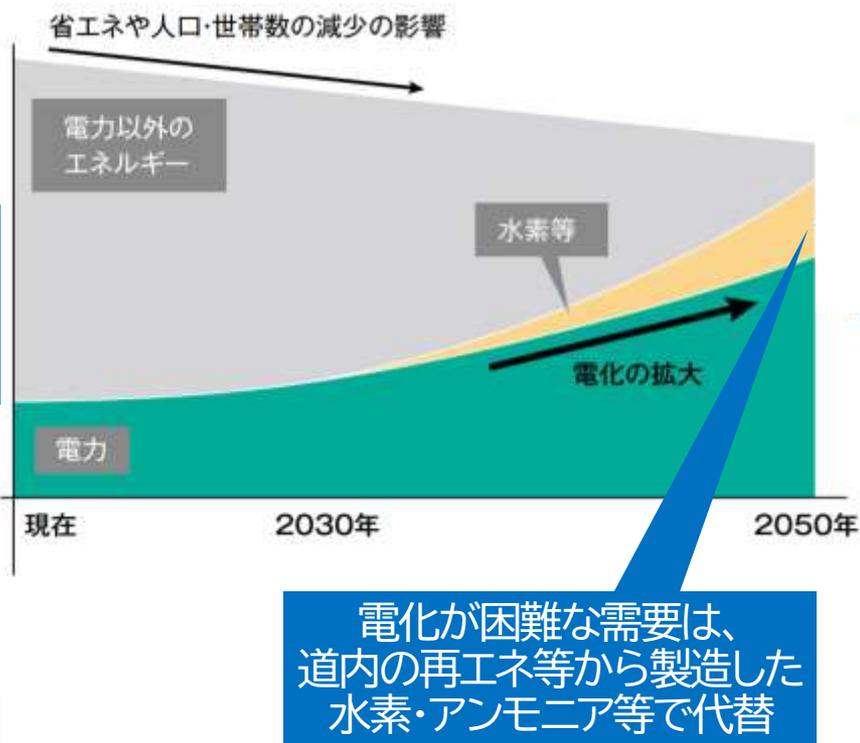
# 2050年カーボンニュートラルを目指して

ほくでんグループは北海道における「エネルギー全体のカーボンニュートラル」の実現に最大限挑戦します。

## ■ 将来のCO<sub>2</sub>排出量削減のイメージ

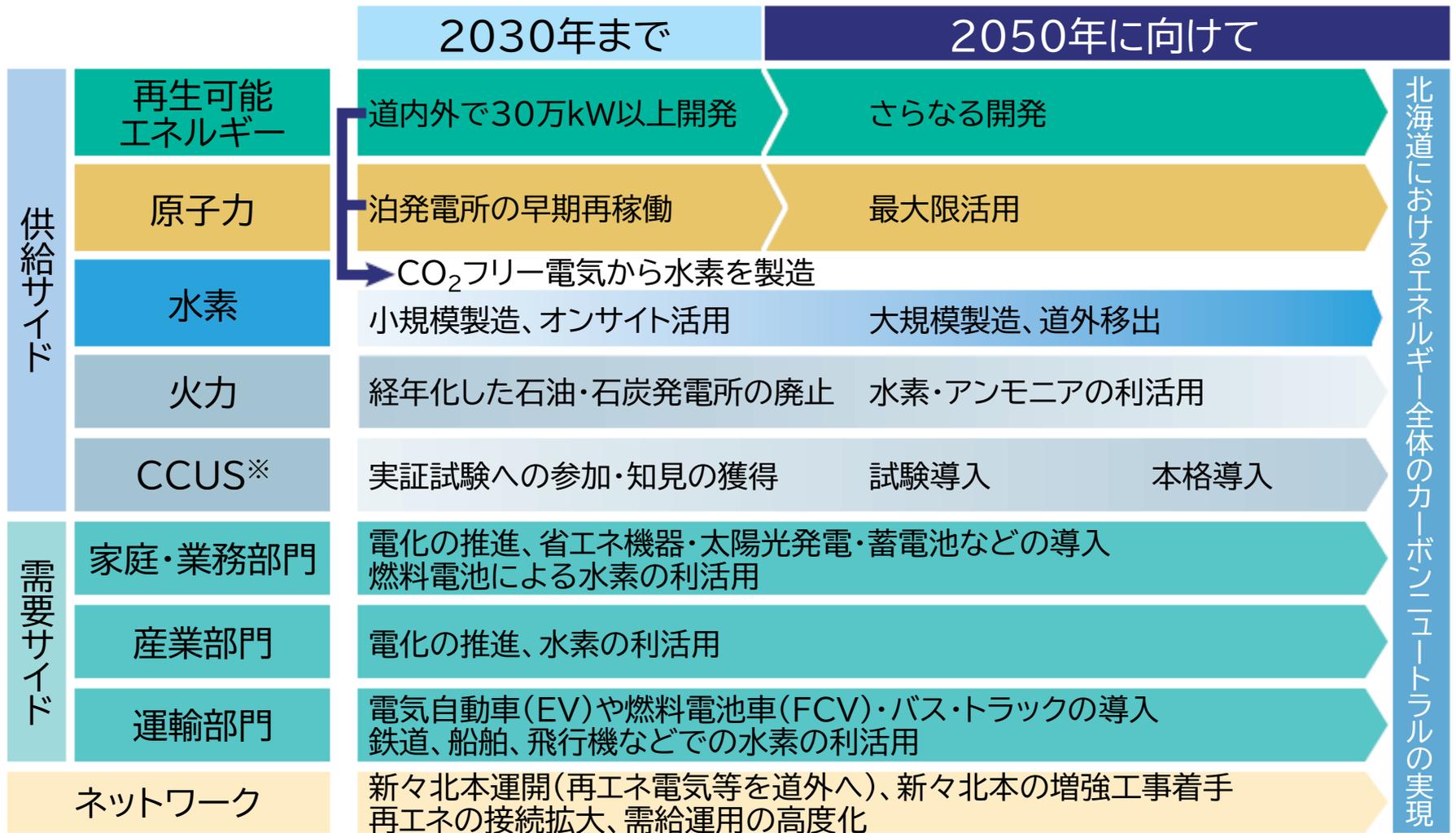


## ■ 将来のエネルギー需要のイメージ



# カーボンニュートラル2050ロードマップ

再生可能エネルギーの導入拡大や泊発電所の活用などのこれまでの取り組みに加え、革新的技術の活用など、あらゆる手段を総動員していきます。



※Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage:分離・回収したCO<sub>2</sub>を再利用したり、地中等へ貯留する技術

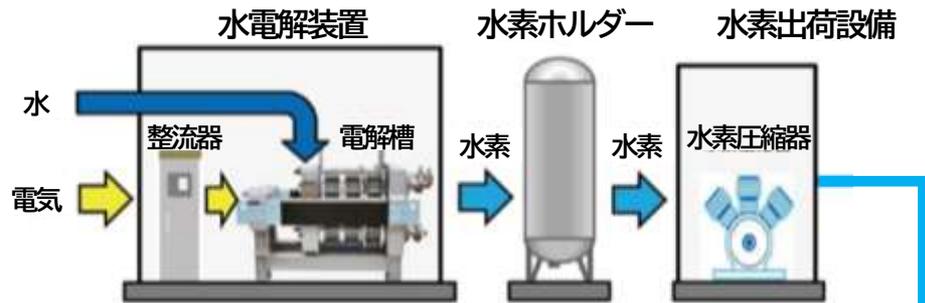


# 具体事例①水素事業の取り組み

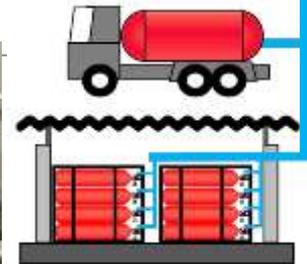
**水素の製造・利活用**は、脱炭素のキーテクノロジーの一つ。

国や北海道、各自治体、他企業とも連携しながら、北海道の豊富な再生可能エネルギーから水素を製造し、様々な分野で利用する「**水素サプライチェーン**」を構築していくほか、将来的には、**北海道が水素社会のパイオニア**となることを目指します。

## ■ 北海道における水素利活用の将来イメージ ■ 水素製造設備の設置・運用



(写真)水電解装置ユニット

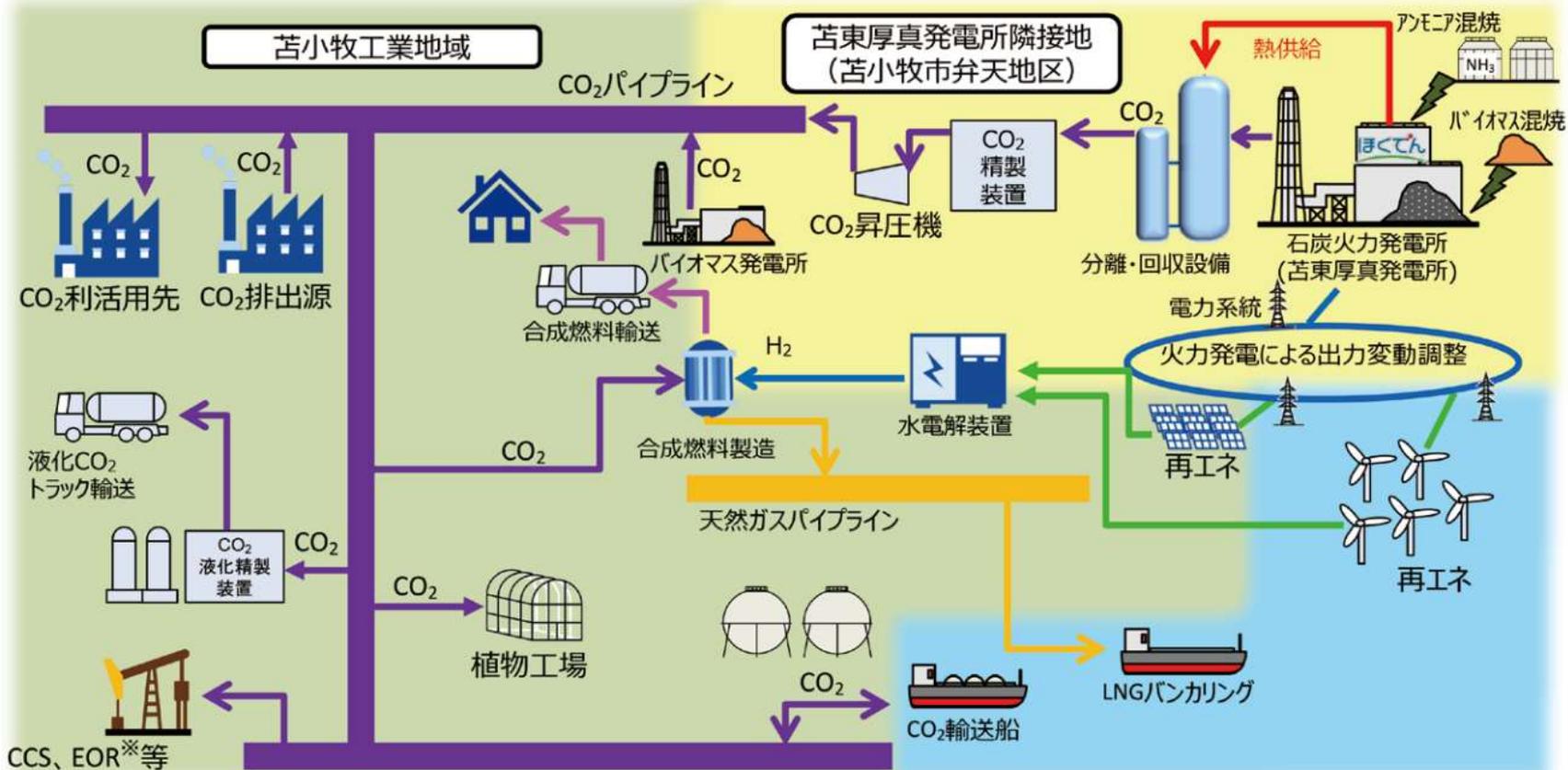


# 具体事例②火力発電の脱炭素化

カーボンニュートラル実現に向けて再エネ電源が増えていく一方で、電力の需要と供給のバランスを保つ調整力として、火力発電の脱炭素化に挑戦しています。

- CCS/CCUS事業の開始に向けた共同検討・実現可能性調査
- 水素・アンモニアの混焼・専焼技術の導入に向けた設備検討

## ■ 苫小牧エリアにおけるCCUS実施イメージ



※Enhanced Oil Recovery: 油田などへCO<sub>2</sub>を圧入し、原油の回収率を向上させる技術 Copyright Hokkaido Electric Power Co..